

10月1日(水)からJR東海駅自由通路の 修繕工事が始まります



▲村公式HP

J R東海駅を利用する方の安全性と利便性の向上を目指し、駅自由通路の雨漏り修理を含む、内外装を修繕するための工事を実施します。

工事は令和7年度と8年度の2年間で、エリアを分けて段階的に行う予定です。工事期間中は、エレベーターやエスカレーターの利用を制限する場合があります。皆様のご理解とご協力をお願いします。※詳細は、村公式ホームページをご覧ください。



令和7年度の工事期間▼10月1日(水)から12月26日(金)まで(予定)

【問い合わせ】生涯学習課文化芸術・スポーツ推進担当
(歴史と未来の交流館内 ☎287-0851)

東海村のユリ

ふるさと歴史訪 ー自然を探してー

スカシユリ(写真①)は昭和60(1985)年に村の花に制定されましたが、生育地である海岸などの自然環境の変化により、生育地、個体数ともに減少しています。

そこで生涯学習課では、平成29(2017)年に「村花スカシユリ増殖事業」を開始しました。かつての生育地にスカシユリを復活させようと、村民からの募集による増殖サポーターや村内企業の協力により、自宅での栽培、種子採集、かつての自生地への移植、野外見学会、情報交換会などを実施しています。栽培技術や生育の環境条件など、さまざまな栽培パターンを試行し、スカシユリの最適な栽培条件を探っているところです。

野外見学会の際に、参加者からスカシユリによく似たユリについて質問されることがあります。そこで、村内で見られるヤマユリ、コオニユリ、オニユリ、タカサゴユリなどのユリの仲間を紹介します。

ヤマユリ(写真②)は、村



【写真⑤】タカサゴユリ



【写真③】コオニユリ



【写真①】スカシユリ



【ムカゴ】



【写真④】オニユリ



【写真②】ヤマユリ

内の草原、雑木林などに生育し、白くて大きい花をつけますが、個体数は減少気味です。コオニユリ(写真③)はオレンジ色の花で、村内の湿り気のある斜面や水田脇の草原に生育しています。草刈りなどが行われなくなり、生育環境が悪化して、生育地が減少しています。オニユリ(写真④)はオレンジ色の花を多数咲かせます。古くから人家で栽培されていますが、最近では海岸の松林などに野生化しています。

コオニユリとよく似ていて、花だけでは区別が難しいですが、葉のもとに黒い球形の「ムカゴ」があることが区別点です。タカサゴユリ(写真⑤)はラッパ状の白い花で、観賞用として栽培されていますが、村内の日当たりの良いのり面や道路脇、空き地などに増えています。スカシユリの生育地にも侵入しています。

村内では、ユリの仲間以外にも個体数の減少している種類や新しい外来種が数多く確認されています。スカシユリの観察をきっかけに、自然環境の変化にも関心が高まることを期待しています。

歴史と未来の交流館副館長(博物館長)

安嶋 隆

